

自他の相違点を考えることがスポットライト効果に及ぼす影響

1250454 篠原 吏輝

指導教員 日道俊之

研究背景

人は自己の信念に偏った推論をする傾向がある。スポットライト効果はその傾向の 1 つであるが、不安や行動阻害などのデメリットが報告されているものの、その減衰法はあまり知られていない。一方で、自他の相違性を強調する操作が自己中心的な推論を減衰させることが知られているが、スポットライト効果を対象にした研究はまだ行われていない。

研究目的

本研究の主な目的は、自他の相違性を強調する操作がスポットライト効果を減衰させるかどうか調べることであった。それに加え、スポットライト効果と自意識、行動抑制能力、認知的共感性がどのような関係にあるのかを調べることも目的であった。

調査・分析方法

大勢の前で恥ずかしい柄の T シャツを着るというシナリオを作成し、行為者として T シャツがどの程度注目されるかを予測する Predictors の実験と、観察者として実際にシナリオを経験し、T シャツに気づいたかどうかを回答する Experiencers の調査を行った。Predictors の参加者は 3 つの群(類似群、相違群、コントロール群)に無作為に分けられ、そのうち類似群と相違群の参加者はシナリオを読む前に、他学生と自分の似ている、もしくは異なる点を列挙した。また、すべての参加者は自意識、行動抑制能力、認知的共感性を測定する調査に回答した。

分析結果

分析の結果、自他の相違性を強調する操作による有意な効果は認められなかったが、類似群・相違群はコントロール群よりもスポットライト効果が小さく、それぞれ中程度の効果量を示した。また、スポットライト効果は私的自己意識と小程度の正の相関が認められたものの、公的自己意識とは有意傾向に留まり、認知的共感性とは類似群でのみ中程度の有意な正の相関が認められた。一方で、行動抑制能力とは有意な相関を示さなかった。

考察・結論

自他の相違性を強調する操作がスポットライト効果に与える影響を調べた結果、スポットライト効果は、他の学生について考える行為そのものに影響を受ける可能性が示唆された。また、自意識や認知的共感性の影響を受ける可能性も示された。一方、スポットライト効果に必要とされる抑制制御が、行動抑制とは異なる側面である可能性が示唆された。